

○平成27年度内部評価委員会の評価結果について

平成27年7月28日に開催された内部評価委員会(委員7名出席)において、事後評価2題、中間評価2題、及び事前評価1題の評価が行われました。評価結果については下記のとおりです。

なお、評価方法は5段階評価で

- 5:非常に高く評価できる。
- 4:高く評価できる。
- 3:評価できる。
- 2:あまり評価できない。
- 1:評価できない。

としています。また、総合評価が2点以下の課題は、原則として廃止又は中止することとしています。

1 事後評価

- ・ 地球温暖化が池田湖の水環境に及ぼす影響に関する調査研究  
(実施期間:平成24年度～26年度)

評価事項	委員							平均値
	A	B	C	D	E	F	G	
① 調査研究目的の達成度	4	4	3	3	2	3	3	3.1
② 環境及び保健衛生行政施策に対する反映・寄与の程度	4	3	3	3	3	3	3	3.1
③ 学術的意義又は技術開発に対する寄与の程度	4	3	4	3	3	3	3	3.3
④ 県民のニーズに対する対応及び波及効果	3	3	3	3	3	3	3	3.0
⑤ 調査研究成果の取りまとめ及び公表の状況	4	3	3	3	3	3	3	3.1
⑥ 今後の発展性	4	3	3	3	4	2	4	3.3
総合評価	4	3	3	3	3	3	3	3.1
(主な意見)								
「全層にわたる循環が発生することによる水質の動態について、複数層に及ぶ調査により大変興味深い結果が得られている。」との意見がありました。また、「池田湖の全層循環成立と気候変動の関連性について明確な知見を見いだせなかったようであるが、今後、水質変化や気象データの解析により水質変動機構の解明が前進していくことに期待する。」との意見もありました。								

- ・ 県内産食品のカビ毒(アフラトキシン)汚染実態調査  
(実施期間:平成24年度～26年度)

評価事項	委員							平均値
	A	B	C	D	E	F	G	
① 調査研究目的の達成度	5	4	4	5	5	4	4	4.4
② 環境及び保健衛生行政施策に対する反映・寄与の程度	4	4	4	4	4	3	3	3.7
③ 学術的意義又は技術開発に対する寄与の程度	4	4	3	4	4	3	4	3.7
④ 県民のニーズに対する対応及び波及効果	4	4	4	4	4	4	3	3.9
⑤ 調査研究成果の取りまとめ及び公表の状況	4	4	4	4	4	3	3	3.7
⑥ 今後の発展性	4	3	3	4	4	3	3	3.4
総合評価	4	4	4	4	4	3	3	3.7
(主な意見)								
「黒糖中のアフラトキシンについて、濃度レベル、汚染が原料のサトウキビに由来していること、アフラトキシンは表面に偏在しており、水洗浄により効果的に低減化できることなど、黒糖中の含有量低減に関する有用な知見が得られていると考える。」との意見がありました。また、「今後は、関係機関等に対し、調査研究により判明した課題と解決策について適切な情報提供を行うなど、黒糖製品の安全性確保のために、調査研究の成果を生かしていただきたい。」との意見もありました。								

## 2 中間評価

- 鹿児島県における粒子状物質などの地域特性に関する調査研究  
(実施期間:平成25年度～27年度)

評価事項	委員							平均値
	A	B	C	D	E	F	G	
① 調査研究の進捗状況	4	4	3	4	4	4	3	3.7
② 調査研究内容及び調査研究体制の変更の必要性	4	4	4	4	4	3	4	3.9
③ 調査研究継続の妥当性	5	4	4	4	4	3	4	4.0
総合評価	4	4	4	4	4	3	4	3.9
(主な意見) 「桜島の火山灰という本県特有の要素を勘案し、地域特性を解析する実用的な調査研究である。」「SPM(浮遊粒子状物質)とPM2.5(微小粒子状物質)との相関性から越境汚染以外の影響を受けていることが示唆できたことは評価できる。」との意見がありました。また、「現在のところ、解析は質量濃度が中心となっているが、イオン成分の試料採取地点の拡充や、無機成分試料の早期分析開始など、データの充実による多岐詳細な解析により、今後さらなる地域特性に関する知見の集積を期待する。」との意見もありました。								

- マダニのSFTSウイルス保有状況等に関する調査研究  
(実施期間:平成26年度～28年度)

評価事項	委員							平均値
	A	B	C	D	E	F	G	
① 調査研究の進捗状況	4	4	3	4	4	4	3	3.7
② 調査研究内容及び調査研究体制の変更の必要性	5	4	4	4	4	5	4	4.3
③ 調査研究継続の妥当性	5	5	4	4	5	4	4	4.4
総合評価	5	4	4	4	4	4	4	4.1
(主な意見) 「マダニのSFTSウイルス感染症は、治療法が確立しておらず致命率も高いことから、マダニのSFTSウイルス保有状況等の生態や感染防止対策等の情報を県民へ提供し、感染防止を図ることは公衆衛生上非常に重要なことで、当該研究は意義あるものとする。」との意見がありました。また、「医師との連携も進んでいるとのことであり、国立感染研究所との情報交換も含め、今後の調査研究の効果が上がり、患者数の減少につながることを期待したい。」との意見もありました。								

## 3 事前評価

- 鹿児島県におけるPM2.5の地域特性と発生源解析に関する調査研究  
(実施期間:平成28年度～30年度)

評価事項	委員							平均値
	A	B	C	D	E	F	G	
① 調査研究目的の妥当性・合理性	4	4	4	4	4	4	4	4.0
② 調査研究内容及び調査研究体制の妥当性・合理性	4	4	3	4	4	3	4	3.7
③ 環境及び保健衛生行政施策に対する反映・寄与の程度	3	4	4	4	4	3	4	3.7
④ 学術的意義又は技術開発に対する寄与・期待の程度	4	4	3	4	4	4	4	3.9
⑤ 県民ニーズに対する対応状況	4	4	4	4	4	3	3	3.7
総合評価	4	4	4	4	4	3	4	3.9
(主な意見) 「健康への影響が懸念されるPM2.5に対する県民の関心が高い研究内容と考えられる。」「地域特性や発生源解明については、県民ニーズ及び行政ニーズにあったものである。」との意見がありました。また、「鹿児島県では桜島の影響など越境汚染以外の要因も考えられることからより多くの知見が得られることを期待する。」との意見もありました。								

○評価結果に対する対応

「内部評価委員会」での意見を踏まえ、各調査研究について、検討・修正等を行い、9月7日に開催した専門家及び有識者で構成する「外部評価委員会」の評価を受けました。